

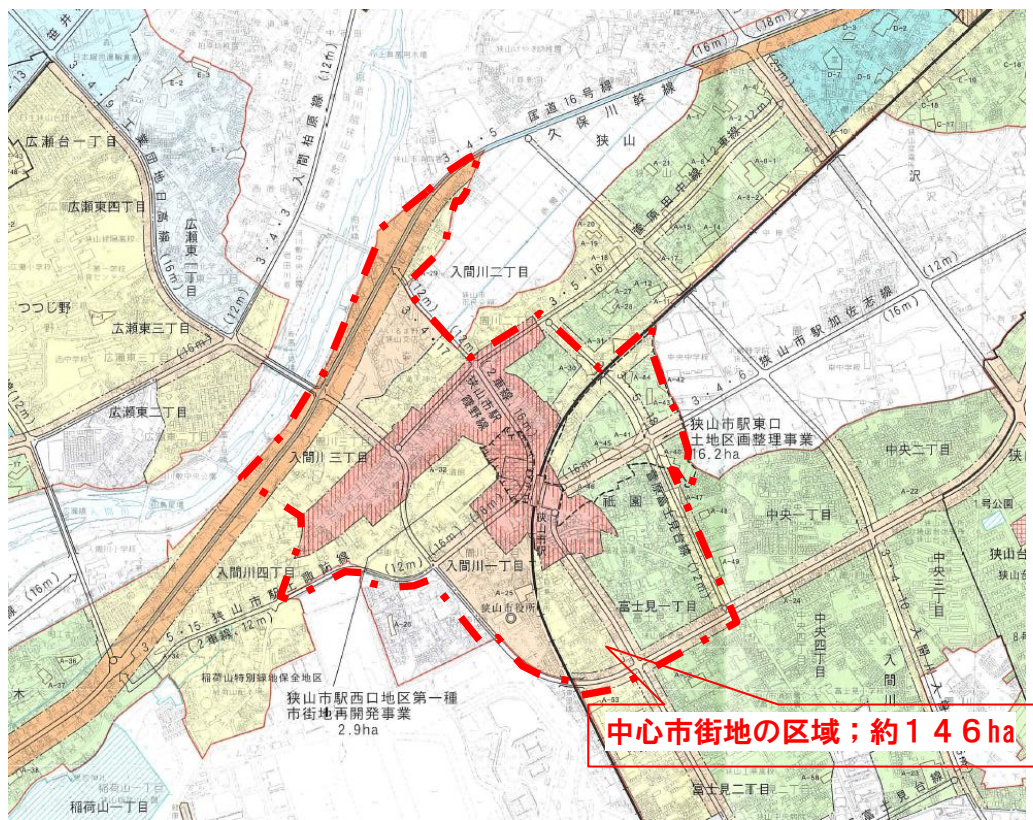
# 1. 中心市街地の現状と特性

## (1) 中心市街地の沿革・位置づけ

### ① 中心市街地の位置

旧基本計画では、狭山市の上位・関連計画（第2次狭山市総合振興計画等）で市の中枢的な拠点として位置づけられてきた狭山市駅周辺地区を中心市街地として位置づけています。

具体的には、狭山市駅周辺地区にあたる入間川一丁目～三丁目、祇園、富士見一丁目を基本に、入間川二丁目の市街化調整区域や住居系用途地域が指定されている区域の一部を除いた範囲を中心市街地の区域（約146ha）として設定しています。



### ② 中心市街地の沿革

中心市街地は、鎌倉時代より鎌倉街道の宿場町として、また、室町時代には交通や軍事上の重要拠点として発展しました。

江戸時代以降は、商業の中心として穀物、生糸、織物などを扱う商家が建ち並び賑わっていました。

戦後の高度成長期には、工業団地や住宅団地の造成により人口が急増し市街地が拡大しましたが、それとともに隣接する川越市、所沢市、入間市などへ大型店舗を中心とした商業の集積が進み、中心市街地の商業は衰退していきました。

現在、狭山市駅周辺については、狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業を核として、新都市機能ゾーンや狭山市駅橋上駅舎化・東西自由通路の整備を含めた周辺整備が進み、市の顔としての基盤整備が概ね整ってきている状況です。

## (2)人口・世帯動向

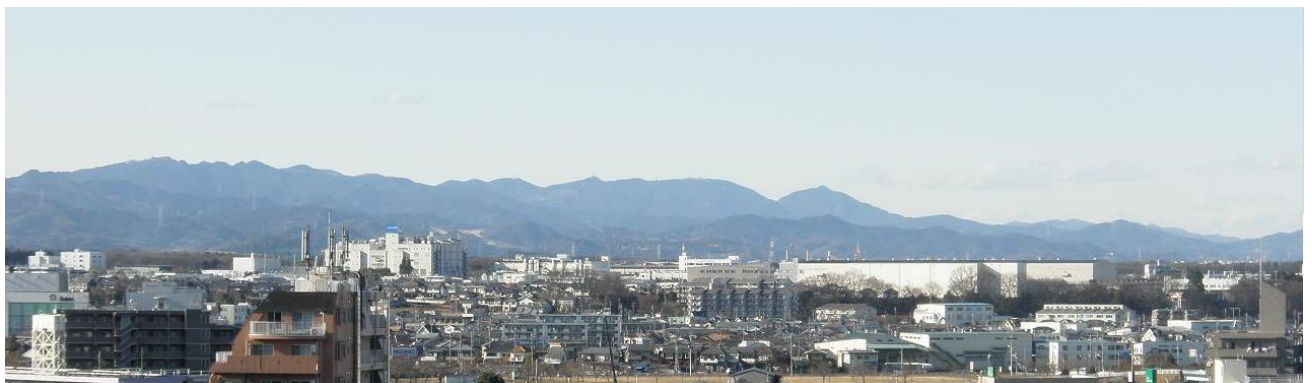
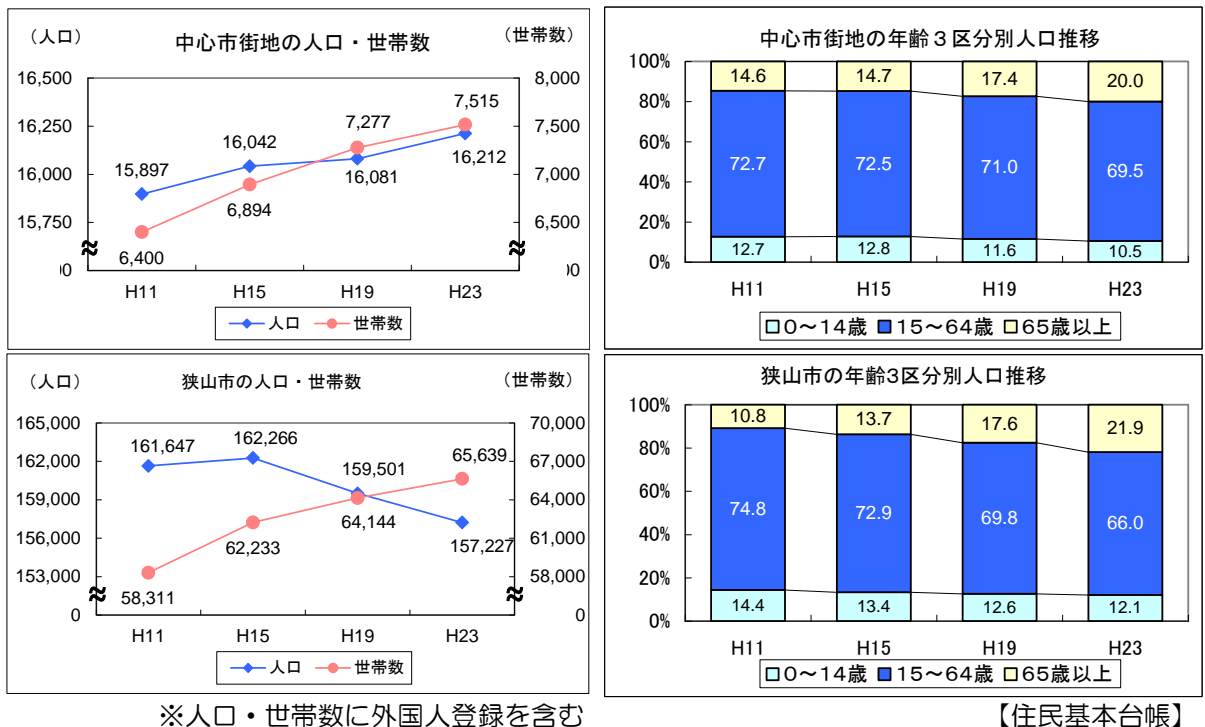
平成23年1月現在、中心市街地では、約16,200人、7,500世帯となっています。人口は、全市的に減少傾向にある一方で中心市街地では増加の傾向にあります。また、世帯数は、全市、中心市街地ともに増加傾向にあります。

年齢3区分別の人口推移では、全市、中心市街地ともに、14歳以下の人口割合の減少と65歳以上の人口割合の増加が見られ、全市的に少子高齢化が進んでいます。

中心市街地では15～64歳人口の占める割合が全市と比較して高い一方、14歳以下の人口が占める割合が低くなっています。

中心市街地・狭山市の人口世帯数、年齢3区分別人口推移

(各年1月1日現在)



スカイテラスからの眺望（飯能・秩父方面を望む）

### (3) 商業動向

最新の調査として、「商業統計調査」では、平成 19 年現在で、市内事業所数は 1,177 カ所、従業者数は約 9,000 人となっています。旧基本計画策定時の直近である平成 14 年から 19 年までの過去 5 年間の推移をみると、事業所数、従業者数ともに減少しています。

この傾向は、入間市、日高市を除き周辺の市と同様な傾向であるといえます。

#### 狭山市及び周辺市の事業所数、従業者数の推移

	事業所数			従業者数		
	H14	H19	対 H14 比	H14	H19	対 H14 比
狭山市	1,347	1,177	▲ 12.6%	10,142	9,087	▲ 10.4%
所沢市	2,475	2,270	▲ 8.3%	20,700	19,244	▲ 7.0%
川越市	3,005	2,661	▲ 11.4%	25,758	23,542	▲ 8.6%
入間市	1,223	1,113	▲ 9.0%	9,348	9,799	4.8%
飯能市	830	765	▲ 7.8%	5,404	5,003	▲ 7.4%
日高市	376	335	▲ 10.9%	2,921	3,064	4.9%

【商業統計調査】

### (4) 大規模商業施設

市内の大規模商業施設は、平成 22 年時点で、16 店舗、売り場面積 91,376 m<sup>2</sup>（埼玉県大型小売店舗名簿）となっていますが、その多くは郊外に立地しています。

また、平成 9 年時点では、21 店舗、売り場面積 61,953 m<sup>2</sup>であったことを踏まえると、店舗の大型化が進んでいることがうかがえます。

なお、中心市街地の大型店舗については、4 店舗、売り場面積 23,841 m<sup>2</sup>となっています。

### (5) 中心市街地周辺の公共公益施設立地状況

中心市街地の狭山市駅西口には、市役所、図書館をはじめとする公共公益施設が立地しています。また、狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業により平成 22 年の産業労働センターに続いて、平成 24 年に市民交流センターがオープンする予定です。また、公共公益施設の立地に併せ、市民広場等の整備が進められています。



狭山市駅西口市民広場



市民広場の思い出タイル



## (6) 公共交通の利用状況

中心市街地にある西武新宿線狭山市駅における1日平均乗降客数の推移を見てみると、旧基本計画策定時（平成13年）には1日平均約58,000人でしたが、平成22年時点では、1日平均約42,000人程度と大きく減少しています。

これは、団塊の世代が定年を迎えたこと、東京家政大学の学内再編、埼玉女子短期大学の市外移転、埼玉県立狭山高校の統合再編による通勤・通学者等の駅利用者が減少したほか、平成16年6月都市計画道路柏原新狭山線供用開始に併せて柏原ニュータウンから新狭山駅への新しいバスルートが開設されたことが主な要因と考えられます。

なお、狭山市駅を発着するバス路線は、旧基本計画策定時は周辺市を結ぶものを含め24路線ありましたが、現在では、入間市駅を結ぶ路線や市内の柏原ニュータウン、狭山台団地を結ぶ路線を中心に16路線となっています。

また、狭山市駅西口を行き先に含む市内循環バスは、2コースが運行され、路線の見直しにより利用者の増加が見られましたが、相対的な利用者数は伸び悩んでいます。

狭山市駅の1日平均乗降客数

年度	乗降客数(人)
平成18年	45,535
平成19年	45,021
平成20年	44,611
平成21年	43,516
平成22年	41,717

※西武鉄道提供



現在の狭山市駅（西口）

## (7) 市街地整備の動向

狭山市駅を中心に、西口では狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業（平成24年完了予定）が、東口では狭山市駅東口土地区画整理事業が施行中です。

また、狭山市駅西口地区第一種市街再開発事業に併せて、狭山市駅の駅舎の橋上化、東西自由通路の整備、都市計画道路と歩道の整備、交差点改良等、市民の回遊性の確保と駅を核とする東西の均衡ある市街地の整備を進めています。

## (8) その他

中心市街地地区では、関東三大七夕まつりの一つである「入間川七夕まつり」が開催されており、狭山市駅西口から七夕通り商店街を中心とした1.5kmの沿道に趣向を凝らした竹飾りと、やらい飾りが立ち並び、多くの来街者で賑わいをみせています。

七夕まつり開催日の狭山市駅の乗降客数(2日間)

年度	乗降客数(人)
平成18年	91,332
平成19年	88,139
平成20年	88,682
平成21年	85,465
平成22年	93,083
平成23年	88,623

【市データ】



入間川七夕まつりの様子